

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

総合印刷物企画・プランニング・デザイン・印刷・加工・
オンデマンドデジタル印刷・デジタルメディア企画制作



半田中央印刷株式会社

〒475-0032 半田市潮干町1番地の21
TEL <0569> 29-2525 (代) FAX <0569> 29-4500
E-mail: main@handa-cp.co.jp <http://www.handa-cp.co.jp>

元氣のでてくる“ことばたち”

(168)

村上信夫



写真左は妻の奈美子さん

いることを、ついつい忘れてしまう。
多発性硬化症は、手足のまひ、視力障害など様々な障害を抱え、発作が起きたり治まったりしながら、進行していく。現在、鳩尾（みぞおち）あたりま

れていて、練習を頑張りすぎた。5000m、1500m、マラソンの3種目に出場。事前の練習で肩の筋肉を断裂。1500mで他の選手と接触して転倒、肩の骨を骨折、後続の選手に3回轢かれた。それでも、マラソンは痛み止めを打って出場。医師からは薬が切れたら恐ろしい痛みが襲うから棄権しろと言われた。医

ていれば生きていられるように思うんです」こう言われると、二の句が継げなかった。
1963年、三重県鈴鹿市生まれ。
子どもの頃は、野球三昧だった。目立つのが好きで、お山の大将、リーダーになリたがるタイプだった。
高校受験に失敗して、第4志望の高校に入ったが、たった1日で退学した。16歳で自動車関係の会社に入社、新型オートバイのテストドライバーになった。
その後、独学でコンピュータのプログラミグも学び、20歳で技術者派遣会社を起業した。派遣社員は200人を超え、会社経営は、順調だった。

1998年、これからと思った35歳の時、アクシデントが襲う。旅行で訪れた韓国で、タクシィから降りる際、いきなり転倒した。帰国してからは、手足も動かず、口もきけない状態で、このまま死ぬと思った。多発性硬化症の最も状態の悪いステージ5だった。しかし神は見放さなかった。奇跡が起きた。
丸太の腕を指指してトレーニング再開。鈴鹿の山道で毎日60キロ走った。そして、01年、大分国際車いすマラソンで2位になった。
その後、短距離に転向。アテネでは悔しい思いをしたが、北京では、400、800mぶつちぎりで余裕の金メダルを獲得した。そして、ロンドン大会直前にも多発性硬化症再発という試練を乗り越え、銀メダル3つを獲得し、「明日という奇跡」を起こした。目指した金メダルには届かなかったが、伊藤さんには、「いのち」という金メダルを大切にしていしてほしい。

明日という奇跡を信じて ～車椅子レーサー 伊藤智也さん～

でマヒが進んでいる。左目は視力を失っている。レースに出ること自体が無謀と言える。レースに出ること自体が無謀と言える。

これまで入院の回数は数知れない。医師からは、病状に影響するので激しい運動は控えるべきといわれている。

「死ぬのは一緒。だったら走りたい」と伊藤さんは言う。「ただ、夜眠るのが怖い、朝起きたら身動き出来なくなっていたらと思うと...」。多発性硬化症は、就寝中に、病状が進行することが多いという。

明日があるかどうかわからない。だから今日を精一杯生きる。伊藤さんは、別れ際、「明日という奇跡を信じて」と言いながら、いつも固い握手を交わす。

伊藤さんが車いすランナーとして、世界に名を知られたのは、2004年のアテネ・パラリンピック。優勝第1候補とみら

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。
この4月からは、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送『日曜はがんばらない』（毎週日曜10:00～）、ABCラジオ『osaka歴史ロマン』（毎週月曜18:35～）、月刊『清流』連載対談～ときめきトークなど、新たな境地を開いている。
1953年、京都生まれ。
元NHKエグゼクティブアナウンサー。
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。
著書に『ラジオが好き!』（海竜社）『ことばのビタミン』（近代文芸社）『いのちの対話（共著）』（集英社）など。

子どもの頃から、走ることで負けたことがなかっただけに、ものすごく悔しかった。障害者なのに頑張ったと言われ、それに満足する自分が許せなかった。

丸太の腕を指指してトレーニング再開。鈴鹿の山道で毎日60キロ走った。そして、01年、大分国際車いすマラソンで2位になった。

その後、短距離に転向。アテネでは悔しい思いをしたが、北京では、400、800mぶつちぎりで余裕の金メダルを獲得した。そして、ロンドン大会直前にも多発性硬化症再発という試練を乗り越え、銀メダル3つを獲得し、「明日という奇跡」を起こした。目指した金メダルには届かなかったが、伊藤さんには、「いのち」という金メダルを大切にしていしてほしい。

これからの伊藤さんは、自分一人のために「いのち」を使うつもりはない。自分が脚光を浴びることが、障害者という狭い枠に押し込められている状況を変えるきっかけになればと思っている。バリアフリー社会が実現する奇跡も信じて。

ラジオが好き!

村上信夫

好評
発売中

■イネ・セイミプロフィール



フルート奏者として活躍中。俳画家。
絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元（故）村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに少女猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ 常滑屋
とき 月二回 第二・第四金曜日
午後一時～三時
会費 一回 二、二五〇円（三ヶ月分前納制）
問合せ ☎〇五六九三三〇四七〇



インディアンフルート教室開講しました。

誰でもすぐに吹けます
入会受付中!!
何か始めたいと
思っている貴女へ
数年後、素敵に
フルートを奏でる姿が
そこにあります
楽しく個人レッスン
致します。

講師 イネ・セイミ
（フルート奏者 指導歴30年）
1レッスン・1時間5,000円（ティータイム付）
申込み
お問合せ 0569-89-7127
seimine@oasis.ocn.ne.jp



俳画／イネ・セイミ

杉本武之

二階建て電車「あおぞら」

(5ページへ続く)

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

— 自分ドラマつくろう — (18) 岡田 清治

結婚

「前島さん、ここで美人に囲まれたら夫婦生活もうまくいきますよ」

「どうですかね。それにしてもこのクラブ、結構な料金でしょう」

「社用ですから大丈夫です」

前島は久しぶりに酔った。

「お客さんも、カラオケ、何かリクエストされません」

色白で和服が似合う前島の隣に座ったホステスがすすめた。

「前島さん、ぜひ、お願いします」

山根も催促してきた。

「恥を忍んで一曲お願いしますか」

「何を入れましょうか」

「では、美空ひばりの『悲しい酒』をお願いします」

前島は舞台に立つてマイクを握った。演奏が流れ歌詞が室内のテレビ画面と同時に前島の前に立てられたモニターにも映し出された。

ひとり酒場で 飲む酒は
別れ涙の 味がする

前島は一番を歌ったあと、ホステスの手を引つ張りデュエットで歌うことを求めた。

歌い終わって席に戻ると、山根が拍手しながら迎えた。

「前島さん、なかなか年季が入っていますね」

「いや、久しぶりに歌ったので音程が外れていました」

「いやいや、たいしたものですよ」

山根はそう言って、マイクを握り『人生の並木路』を歌った。

「いや、今日は実に楽しいですね」

「よかった」

二人はタクシーをひろってＪＲ川崎駅に出て別れた。

前島はその夜、帰宅すると留守テルに恵美のバリからの伝言が録音されていた。

「保さん、お元気。いまパリのホテルから電話しています。ようやく商談がまとまりましたので明日、帰国します。お休みなさい」

前島は留守テルの再生ボタンを押してメッセージを聞いたが、「帰りが遅いとか、飲み過ぎないようにとか、食事をきちんとすることなど、日常的なことは何も入っていない」と思うようになった。

いつものことだが、メッセージに生活臭がないのだ。一つ屋根の下に男と女がそれぞれ生活している感じである。前島には結婚生活の実感が湧かない。

恵美はなぜ、結婚したのか。映画『ある愛の詩』を観たとき「愛とは決して後悔しないこと」というセリフに感動したといったが、われわれ二人の結婚に愛はないのか。愛のない結婚を恵美は望んだのか。少なくとも前島は愛を感じて結婚したと思いたかった。

二人は紹介されて川が自然に流れるように結ばれたが、前島は恵美の豊かな知性に魅力を感じた。

おカネの管理はそれぞれがしていた。恵美は日々の生活費を支払い、前島は家賃や大型家電、パソコンのローンをクレジットで処理して暗黙のうちにすみ分けができていた。お互

いの年収は知っていたが、恵美は「今月は赤字だわ」と言いながらも前島におカネの催促をすることはなかった。

休日に映画を観たりレストランで食事することはあっても、とくに好きなことにのめり込むことはなかった。それだけ仕事が忙しかったのだが、「音楽会にいけない」と愚痴るぐらいであった。

自宅のマンションにいるときは、買い物、料理、掃除など家事をやって、文句のつけどころはなかった。



ハチドリ(チリで著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」日本のゆくえ「結婚」夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。

FAX… 0569—34—7971

メール… takamitsu@akah-shinbun.net



■プロフィール

著者：岡田清治(おかだせいじ)
一九四三年生まれ ジャーナリスト
(編集プロダクション・NET108
代表) 著書に『心の遺言』

『あなたは社員の全能力を引き出せますか!』
『リヨンで見た虹』など多数

「今日は何を食べたいの」

「そうだな。カレーがいいな」

真三がつぶやくように答えると、すぐ準備にかかる。マンション内や近所付き合ひもなく、友人から自宅への電話も前島の知る限りほとんどない。

「年賀状、出さないの」

「来たものだけに出すの。あまり形式的なこととはしないことにしているの」

と、ほとんど自分からは書かない。

これも恵美が妊娠して子宝に恵まれれば退社して家事に専念するだろうと漠然と思い巡らした。ただ将来について二人で向き合って話し合ったことがなかった。恵美はどういう将来を描いているのだろうか。

結婚生活も二年以上経つが、妊娠の兆候がない。ひよつとしたら前島は自分に欠陥があるのかも知れないと思うようになった。後日、専門医を訪ねて「検査の結果は正常でした」と、医者からお墨付きを得た。

前島はそう決意することでほととする反面、不安に襲われた。恵美に欠陥があるのだろうか。そんなむごいことを聞く勇氣はない。外国では夫婦そろって産婦人科医に相談すると聞くが、日本人はそういうことは苦手である。そのうち眠りについて。

次の日の朝、会社行くと課長が声をかけた。

「前島君、OJT(オン・ザ・ジョブトレーニング)のプログラムで、研究所に配属になった天野聖子さんをうちの課で引き受けることになった。ついては前島君に天野聖子さんを預けるので、指導案を今週中に出してくれないか」

「そうですか」

前島は余分な仕事が入ってきたと思った。

指導案が了承され、二日後に天野聖子と面談することになった。

その日の朝、課の応接ソファに若い女性が座っていた。前島は見てすぐに配属されてきた新人社員だと直感した。やがて課長が「今日からOJTを受ける天野聖子さんです。よろしく頼む」と課員に紹介した。

「ご紹介いただきました天野聖子です。よろしく願いします」

「これからは前島君の指示で一日も早く研究所のことを覚えてください」

「はい。がんばります」

天野聖子は簡潔に受け応えた。

「では、応接室が空いているので、そちらで今後のスケジュールをお話します」

二人の出会いがその後の前島の人生を狂わすことになるが、この時はまだ、そのことは微塵も考えられなかった。

天野聖子は前島の後に続いて応接室に入った。

「一通り仕事の説明をした後、一緒に得意先に行きますので、よろしく頼みます。午前中、私は自分の仕事をします。天野さんは資料に目を通して、分からないところは昼休みにでも聞いてください」

「わかりました」

「天野さんの出身は宮城県ですか」

「そうです。近くに阿武隈川が流れ、とっても自然が美しいところですよ」

「そうでしょうね」

前島はまだ初々しい天野聖子を見つめながら、大学に入った頃、東北へ旅に出てほのかな思いを抱いた女性に会ったことを思い出していた。

— 島崎藤村の詩「初恋」に感動したことを今でも鮮明に覚えている。

まだあけ初めし前髪の

林檎のもとに見えしとき

前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

「まだあけ初めし前髪の」一節に初々しい乙女の姿が青春の「コマ」として浮かんできくる。あの頃はうぶな自分はただ、淡い恋心を抱くだけで声もかけられなかった。

いま、天野聖子の色白で前髪の一部が少し額にかかっている清純な顔立ちに、あの頃の乙女が現れたかのような錯覚が沸き起こっている。

天野という女性とはとくに美形ではなかったが、そこには何か温もりを感じられるように思えるのだ。どうしてだろう。不思議な感情が沸き起こっては消える。彼女はまだ未婚だろうが、恋人はいるのだろうか。いてもおかしくないが、いないような、いやいてほしくないと熱望した。まだ一回、会社でしかもOJTの指導で会っただけなのに、自分の席で目を閉じると彼女のことが浮かぶ。

スリムなからだだが全裸となつて前島に覆いかぶさってくる。前島は急いで衣服をかぎり捨て、天野を抱きしめた。

「前島さん、もっと強く抱いてください…」

「好きだよ。聖子…」

二人はお互いのからだを手でなでであった。まだ子どものこぶしほどの乳房の先にピンク色の乳首が堅く突起していた。前島はその乳首に口づけをしながら吸った。天野はからだを震わせながら悶えた。

応接室で前島は時々、天野聖子の顔を見つめながら淡々と午前中の指示を与え、自分の席に戻った。

「前島さん、今月末、部内の新人歓迎会を駅近くの居酒屋で行いますので、天野さんにもお伝えください」

庶務の女性が応接室から出てきた前島をつかまえ伝えた。「わかった。後で伝えておくよ」

その日は真つ直ぐ帰宅した。天野聖子と出会ったことが前島の内面を明るくしていた。脳裏から彼女の姿が消えない。

帰宅した前島は、まだ恵美が帰っていないことを知った。

「残業かな。バリ出張の報告書を作成するから遅くなる」と言っていたことを思い出した。

留守テルの再生ボタンを押した。

「少し遅くなりますが、夕食の惣菜を買って帰ります」

仕方がないので冷蔵庫からビールを取り出し、ツマミのピーナツを小皿に移しソファに横になる前にテレビのスイッチを入れた。

テレビの画面に目を移し、観るとななしに中日―巨人戦の映像を見ていた。

すると再び天野聖子が浮かんできた。

その時ピンポンと玄関のインターフォンのベルが鳴った。

(続く)

フルートが結ぶ縁

鳥山ひろみ



私とフルートの出会いは、中学校の吹奏楽部でした。学校の楽器を借りて練習してたある日、顧問の先生に職員室に呼ばれました。

「お母さまから注文された楽器が届きました。今日から、これを使いなさい。」

母から聞いてなかった私は、びっくりしました。そしてすごく嬉しかったです。一緒にいた同級生も、先生から同じ事を言われ、二人で新しい楽器を手にししました。でも、同じ言葉だったけれど、同じ楽器ではありませんでした。私の楽器は二万円。同級生の楽器は、その二倍の値段でした。お金持ちとは違うな、いいなと思うけれど、当時の二万円は、我が家には大金でした。母がどんな思いで工面してくれたのかを考

えたら、私には最高の楽器、大切にしようと思いました。そして、たくさん練習して、同級生より絶対上手くなってやると強く思いました。

一旦やめていたフルートを再開したのは、お母さんの人形劇団の一員として保育園へ行く時、仲間から

「公演の最初に一曲吹いてみませんか。」

と声をかけられたから。フルート一本で吹くの?と思いました。伴奏無く、アカペラで吹いてもなあと思いました。でも、園児たちは大喜び。一緒に歌ってくれたのです。フルート一本でもいいんだ、一本でもやる事あるんだと、園児から教えられた気がしました。

人形劇やお

話は、保育園だけでなく図書館や公民館など、色んな場所でも演奏してもらいました。行く先々でたくさんのご縁をいただきました。

たまたま、私たちの公演を見てくれた中に、後輩でピアノの先生がいました。「うちの子が通ってる保育園

で、クリスマスコンサートができたらなと思ってます。協力してくれませんか?」

「嬉しいです。是非、参加したいです。」

他に、もうひとりフルートを吹く人と歌をうたう人も誘って、四人になりました。四人で一時間。演奏だけでなく、パネルシアターや手遊びも入れて、あつという間に一時間が終わった気がしました。それだけ、楽しかったのです。四人は、一回だけのつもりでした。でも、口こみで依頼が広がり、演奏の機会がどんどん増えていきました。

保育園は、手放しで楽しいです。無償の愛という言葉があります。園児たちは、無償の笑顔をいっぱい見せてくれます。心の底からケラケラ笑う姿を見て、私たちも元氣になれます。

「立ちましよう。」

って声をかけないのに、前奏を聞いたとたん、みんなが立ち上がった踊り出す。最後の歌は、そのまま立った状態で大合唱。ライブ会場にいる雰囲気は自然にできてしまった事もありました。

もうひとつ、保育園に行く楽しみ。それは、紹介の部分で「今日は、お姉さんたちが来てくれました。素敵な演奏を聞きましょう。」

と言ってもらえる事。先生がお姉さんと呼ばば、園児たちは何の躊躇もなく「お姉さん。」

と呼んでくれます。私たち、四人とも女性。何歳になっても、お姉さんは、嬉しい言葉です(笑)

私は、フルートで詩吟の伴奏だけは三十年以上続けています。学生時代、母に連れられ、詩吟の教室に通っていた事があり吟を覚えました。最初は詩吟の大会で、アトラクシヨンのフルート伴奏をしました。本来詩吟の伴奏は、尺八と相場が決まっています。でも民謡や古典の尺八が吹けても、詩吟を知らない、詩

私は、フルートで詩吟の伴奏

と、そのための練習が若返りの秘訣と思います。その中で、今年八十二歳になるといっておばさまから、個人的なお誘いをうけました。

「私、カラオケもやっとなるじゃんね。その発表会の合間に、詩吟をやってみませんか、カラオケの先生に言われちゃった。伴奏に来てくれんかなあ。」

会場のホテルに行くと、詩吟の前は、九十二歳と八十五歳、八十三歳、三人の大正琴の演奏でした。着飾ったみなさん、とてもお綺麗。演奏もお上手でした。この場に同席させてもらえたのも、ご縁だなと思いました。

私は今、金色のフルートを吹いています。そのフルートに会えたのは、偶然的チャンスが重なった結果でした。

フルートのご縁が繋がっていく中で、最近はお寺によく行かせてもらうようになりました。童謡などをみなさん一緒に歌ってもらいながら、法話を聞いて頂く法話楽団の一員としてです。法話の中で繰り返し出てくる言葉があります。

「阿弥陀様が金色をしてるのはね、自分のお姿を金色に光り輝かせ、みなさんの事を側で見守っていてくださっているんだよ。南無阿弥陀仏。」

「金色、金色。」

と私の頭の中で繰り返されました。お寺で吹くフルートは、金色がいい、いつしかそう思うようになっていきました。私は、長い間、楽器は値段で吹くんじやない、吹き方だと思ってきました。中学校時代、たくさん練習してソロを吹かせてもらえた。その時から考えは変わっていませんでした。

銀のフルートに限界を感じ、金色に憧れを持ち始めた頃、体

に異常を見つけ検査を受ける事がありました。結果が出るまでの二週間不安な気持ちの中、もし限りある命なら、その時が来るまでもっと吹きたいと、思いこみの空想をしてました。結果は異常無し。ガクツと拍子抜け。

たまたま、その時臨時収入があり、やりたい事は、今やろうとフルートの専門店を訪ね、金のフルートを試奏。ビビッと衝撃を受けました。よく鳴る、今の楽器とぜんぜん違う。お店の人に、いつ頃購入できるか問い合わせてもらうと、すぐあるという返事。それには、お店の人もびっくりでした。私の欲しい楽器、注文してから一年、場合によっては二年待つ事もあると思ってたからです。後一年くらい貯めたお金を足して購入の予定が崩れました。どうしよう。思い切って主人に相談しました。

「私ね。若い頃、金のフルートを買ってくれる人と結婚しようと思ってたの。でも言えなかった。けど今、楽器が欲しくなったの。」

「そうか。どうしても今か?」主人は少し考えて、足りない分を出してくれました。

「結婚前なら全額、だけど今は結婚後だからな。」(笑)

こうして、私は気持ちよく音の出る楽器と巡り合い、今は大満足です。

さあ、今日も練習。新しいご縁は何かなあと考えながら。

筆者の紹介

鳥山ひろみ

名古屋市の会員

法話楽団「迦陵頻伽」メンバー

現在 小学校非常勤講師

西尾市在住



わが家のニューフェイス



井上 晴雅(2才3ヶ月) 名古屋市緑区尾崎山

	ら	僕	ら	ラ	ッ	と	よ	に	
写	パ	は	せ	レ	て	マ	！	な	
真	パ	み	る	ー	く	マ	ま	ッ	
文	マ	ん	か	ル	れ	は	だ	て	
	マ	な	ら		る	「	上		
井	い	ー	い	僕	よ	よ	手	お	
上	ッ	緒	ち	が	よ	く	じ	歌	
	ば	が	ゃ	っ	好	来	ゃ	も	
実	い	一	ん	ぱ	き	た	い	少	
矢	遊	番	は	い	な	ね	け	歌	
子	ん	好	大	電	遊	っ	ど	え	
	で	き	忙	車	び			る	
	ね	だ	し	を	は	て	パ	ん	
	ヴ	か	っ	走	プ	言	パ	だ	



お	僕	名	は
話	は	前	じ
し	最	ほ	め
が	近	晴	ま
出		雅	し
来	い	で	て
る	っ	す	
よ	ば		僕
う	い		の

愛とMy Family



永柳 美花(8ヶ月) 常滑市かじま台

	気	こ	野		や	い	る	よ	
写	に	れ	菜	お	う	し	と	誰	
真	遊	か		じ	ん	そ	ッ	か	
文	ん	ら	お	い	だ	う	何	の	
	で	も	魚	ち	。レ	も	食	口	
	大		を	ゃ	元	ッ	べ	が	
	き	い	楽	ん	気	て	る	も	
	く	ッ	し	達	印		る	ぐ	
永	な	ば	み	か	の	つ	の	も	
柳	る	い	に	ら	ま	い	か	ぐ	
	よ	食	し	届	ん	気	な	動	
美	☺	べ	て	く	丸	に	あ	い	
保		て	い	新	顔	な	ッ	い	
子			ま	鮮	で	ッ	。お	い	
		元	す	な	す	ち	お	い	



野	な	食	は
菜	美	べ	く
	花	る	ば
	で	こ	く
	す	と	も
		が	ぐ
	ご	大	も
	は	好	く
	ん	き	：

おもしろ布の楽しい装い展

中根由美子 染色作品展

2012年10月13日(土)～21日(日) 10時～17時(水曜日定休)
10月21日(日)最終日は16時で終了します。

柿渋染のコートワンピース、ウールニットの肩衣、あたたかい
パンツなど。秋冬の服展です。



陶芸サロン
陶美園

〒479-0838
常滑市鯉江本町6丁目36番地
☎(0569)35-2320



第9回

今年のフェスタは!!
ひと味ちがうぞ!!

にぎわい
屋台広場

2012年
10月27(土)・28(日)

とこなめ
屋台倶楽部
共催

にぎわい
屋台広場

スタンプ
ラリー

ミュージック
ライブ

ラーメン・たこ焼き・から揚げ・焼きそば・やきとり・ハンバーガー・井当屋
デザートショップ・ねぎ焼き・生ビール・ジュース・とこなめの物産
なんでもありのフードコート・常滑焼引き猫即売・引き猫グッズ直売・射撃・他

ほり出しもの市

楽しい

子供ねんど遊び

などなど
催し物が
いっぱい

ほんの一例です
●やきもの作家ショップ・雑貨・手造り布バッグ・ほか
●おもしろ古道具がいっぱい古道具市
●メーカー協賛のグラスが大安売り
●やきもの工場のほり出しものが大安売り

主催／NPO法人 常滑観光推進協議会
あっちべたこっちべたフェスタ実行委員会 ※当日の催し物内容が変更になる場合がありますのでご了承ください